OSAKA・Ⅱ ZONTA CLUB

大阪Ⅱゾンタクラブ第55号（2023年3月）

Eメールアドレス：d26osaka2@zonta-d26.jp

巻頭言

ゾンタ・ローズデーに寄せて

会長　坂本　千代

組織としてのゾンタの活動を考えるとき、私のイメージするのは、自分ひとりの目や耳では捉えきれない多くの情報を集めて判断する頭と、自分ひとりの手では届かない遠い場所にまで伸ばすことのできる長くて大きい手です。

女性と女児の地位向上・環境改善がゾンシャンの大きな目標ですが、衣食住という人間の基本的な生存条件に関わる問題が存在し続けていることを私は時々思い知らされることがあります。しばらく前、コロナによる自粛真っ最中の頃、近所のスーパーに食料品を買いに行きました。駅下の地下道から店に続く階段のわきに、顔を手でおおってうずくまっている男性がいたのですが、私が前を通るとその人が立ち上がりました。運動靴で、ごく普通の身なりをしたその中年男性（50才くらい？）が「2日前から何も食べていないんです。500円でいいのでもらえませんか？」と言うのです。私はとっさに「すみません」と言ってそのまま通り過ぎたのですが、数歩進んだあと心苦しくなり、立ちどまって振り向きました。男性はまたしゃがみこんでいます。私は財布から1000円出してから引き返し、「どうぞ」と言って手渡しました。スーパーで買い物をしたあと、また同じ場所を通った時にはもうその男性はいませんでした。もちろん、外国に行くと物乞いの人を見かけることがありますし、見ず知らずの人にパリの路上で突然お金を恵んでほしいと言われたことも私は何度かあります。しかし、日本でこういう経験をしたのは初めてで、かなりショックを受けました。我が家の近くでもホームレスの人を見かけることはありますが、それまでお金を恵んでほしいと言われたことはなかったので、日本社会の現状は私が思っている以上に危機的なのかもしれないと今更ながら感じたものでした。

私が1000円を手渡した男性が本当に食べ物を買えなかったのか、物乞いする以外の手段が本当になかったのかはわかりません。ただ、目の前に現実として困っている（ように見える）人がいて自分に助けを求められた場合、聞こえないふりをして素通りするのは、やはり心が痛むのです。しかし、眼前の人をなんとか援助することができたとしても、日本中、世界中の困っている人の手助けをすることはもちろんできません。誰をどのように援助するのか（できるのか）という明確な目的と、それを達成するための広い知識や経済力、組織力がどうしても必要となります。だからこそ女性と女児に関する諸問題を中心に据えて地球的な規模でそれの解決をはかる国際ゾンタの活動の意義があるのだと思います。ゾンタを通じて、ほんの少しでも、自分ひとりでは手の届かない人々の役にたてたらいいなと思う今日この頃です。

国際大会への旅

最悪の旅行

内藤　惠子

6月23日から30日まで、ゾンタ国際大会に出席するため、ハンブルグに旅行しました。友人と、ハンブルグのホテルで落ち合う予定で、1人でANAに、乗りました。伊丹でチケットが3枚出ず、フランクフルト空港から、ハンブルグは自分でチェックインしてと言われ、いつも全行程のチケットが出てくるのに、と思いながら、搭乗しました。フランクフルト空港で、ハンブルグ行きの飛行機がでないから、列車で行けといわれ、列車のチケットを渡されました。次の飛行機に乗せてといっても、今日はでないと取り付く余地もありません。ウクライナで何か問題が起こったのかと思い、列車で行くことにしました。でも、トランクがハンブルグ受け取りになっていて、探すのに3時間かかり、広い空港の中を走り回りました。国際大会なので、PCもリュックサックで持っていました。次は駅に行かねばなりません。掲示板に従ってもたどり着かず、若い女の子に聞いたら、隣りのビルと教えられそれに従ってやっと駅に着きました。案内所でチケットを見せたら、あと7分で出ると急いで列車に飛び乗りました。長距離列車で、満員でした。やっと座ったら、指定席で、私のは1等車で最後尾か、最前列の車両だとわかり、大きいトランク、リュックサックをもって、列車の通路を2往復しました。ハンブルグまで、5時間のはずが7時間かかりました。

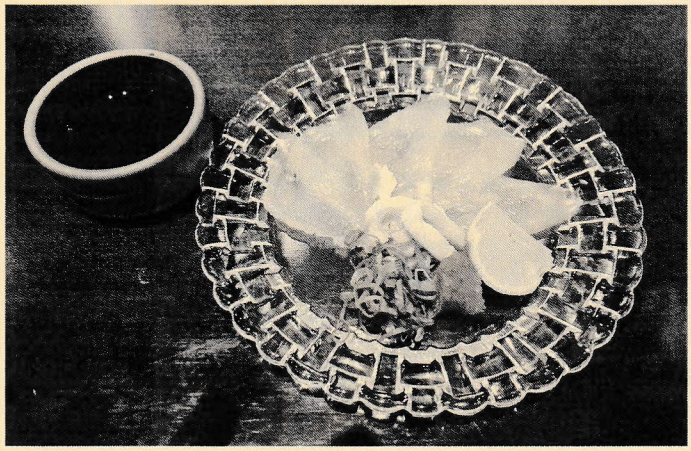
フランクフルト空港に午前5時に到着しハンブルグのホテルについたのは午後4:30でした。ホテルの前に長い列、何事かとおもったら、チェックインに並んでいました。今ホテル宿泊費が高く、16000円で評価4つ星のホテルを見つけて喜んでいたら、皆思いは同じで、一杯の宿泊客でした。ヨーロッパの航空便は乱れて、キャンセルが多発しています。一緒に行ってくれた友人も、1人は発熱してホテルにこもってやりすごし、もう1人はドバイで1週間止められました。こんな旅行は2度とないとおもいます。歳だと泣き言をいってられませんでした。歳にめげずに、人生をエンジョイします。

忘年会

2022年忘年会

芳川　た江子

大阪Ⅱゾンタクラブの2022年の忘年会は、12月8日（木）に長堀橋駅近くのレストラン「いつも」で開催しました。出席者は、尼木・牛田・笠置・坂本・笹岡・清水・内藤・中川・中田・幡山・久岡・堀・三林・芳川（敬称略）の合計14名でした。メニューは、前菜3種（小松菜のお浸し・ふぐ皮煮こごり・磯つぶ貝旨煮）、てっさ、寒ブリの七味焼き、キノコの茶碗蒸し、黒毛和牛のヘレステーキ、白ご飯・香物・お味噌汁、チーズケーキと豪華で、とても美味しかったです。私達の貸し切り状態だったので、気兼ねなく話がはずみ、楽しいひと時でした。終了後、みんなで記念に写真をとりました。



六甲アイランド散策

久岡　眞佐代

2022年11月13日（日）、六甲アイランド（人工島）と飲茶料理に誘われて秋の移動例会に参加しました。午前11時30分～午後1時まで神戸ベイシェラトンホテル＆タワーズにある「翠亨園」で昼食（飲茶バイキング）と例会をすませた後、午後から神戸市立小磯良平記念美術館に行きました。

丁度、コロナ感染の再拡大に加えてインフルエンザの流行も気がかりな時期であり、参加者は8名でしたが、個室で一つの円卓を囲むと話が弾み、お喋りしながら次々と出てくる出来たての飲茶も食べ続けるという忙しくて楽しい例会でした。

午後からは降りしきる雨の中、鮮やかな黄色に色づいたイチョウ並木をゆっくり散策しながら小磯良平記念美術館に向かいました。秋の紅葉と言えば赤のモミジが代表的ですが、赤色の入っていない黄色一色の景色も大変美しく、黄色のイルミネーションにすっかり魅せられました。

小磯良平記念美術館は開館30年周年記念企画として、神戸を代表するモダニズムの詩人「竹中郁」（1904年～1982年）と洋画家「小磯良平」（1903年～1988年）との交友と活動をたどる展覧会を開催していました。

ふたりは、裕福な家庭に生まれ、旧制中学の同窓生であり、竹中郁は関西学院（現：関西学院大学）文学部を卒業、小磯良平は東京美術学校（現：東京藝術大学）西洋画科を卒業し、一緒にフランスに留学し、西洋の芸術を見て回り、若いときから豊かな才能を注目された芸術家です。芸術家というと孤独であまり人と交わらないイメージですが、ふたりは中学時代からの親友として芸術家として互いに尊重し合って穏やかな芸術家人生を全うされたようです。小磯良平の絵画は穏やかな作風で親しみやすく、コロナ禍で沈んだ心を癒やしてくれました。

今年の秋は朝晩の寒暖差が大きい日が続きましたが、この日は終日気温が安定し、澄んだ空気が心地よく、ほっと一息ついた一日でした。

セネガルからの手紙（プラン・インターナショナル）

PLAN INTERNATIONAL
Senegal

PLAN INTERNATIONAL

LETTRE – REPONSE (SCR / DSCR /SGR/ ECR)

TO: SPONSOR: Zonta Club of OSAKA2 NO PREFIX & SP #: J – 72829
FROM: SPONSORED CHILD: Mame Diarra Gueye PU PREFIX 1024 SC #: 1259944

DATE 08 . 07 . 2022

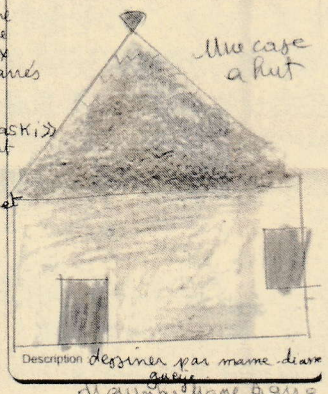
Cher/Chère Zonta Club OF OSAKA2

Je m'appelle Abdou Gueye frère qui lis cette lettre au nom de mame diarra gueye. La famille de mame-Diarra sont content de vous présenter de cette lettre pour pour savoir qu'elles ont reçu votre carte calendrier 2021. La famill se portent bien. mame-Diarra Gueye est en vacance Actuel - l'école arabe vient de fermé ses portes à la fin juin & elle aide sa maman aux travaux ménagers. les parent ont demarrés les travaux des champs. les gens préparent la grande fête musulmane, la Tabaski, ce jour là, les enfants prtent des bonbon neuf et allez visiter leurs parents et leur voisinage pour les demandes de pardons et bénient. il pleut pas à peu partout il y a la verdure ..... quel temps fait il chez vous.

mame-diarra gueye et sa famille vous transmettes les salutations les plus sincères.

merci

Mon Dessin pour toi



Description dessiner par mame diarra gueye
dessiner Mame Diarra Gueye

Lettre écrite par : Abdou gueye Relation avec le SC Frère

7.
SC 番号: 1024-0001259943
SC 名: MAME-DIARRA GUEYE
国名: SENEGAL
性別: F 年齢: 13

SP 番号: 0072829
SP 名: オオサカツーゾンタクラブ様

2022 年 7 月 8 日

親愛なるオオサカツーゾンタクラブの皆様

私は MAME-DIARRA GUEYE の代わりに手紙を書いている、きょうだいの Abdou Gueye です。
カードとカレンダーを受け取り、お手紙でご報告できることを、家族で嬉しく思っています。
家族はみんな元気です。
現在は、MAME-DIARRA GUEYE は長いお休みに入っています。学校は 6 月の終わりからお休みになります。
彼女は、お母さんのお手伝いで家事をしています。両親は農業を始めました。
人びとは、タバスキという大きなお祭りの準備をしています。
その日は、子どもたちは新しい服を着て、親戚や近所の人を訪ね、施しや贈り物をもらいます。
雨が少しずつ降り始め、色々なところで緑が見られるようになってきました。
あなたは、どのような天気が好きですか？
MAME-DIARRA GUEYE と家族一同、あなたがお元気であることを願っています。
ありがとうございます。

チャイルドの MAME-DIARRA GUEYE より

✍ チャイルドのきょうだいの Abdou Greye が代筆しました。

PLAN INTERNATIONAL
Senegal

PLAN INTERNATIONAL

LETTRE – REPONSE (SCR / SGR)

TO: SPONSOR: ZONTA CLUB OF OSAKA2 NO PREFIX & SP #: J – 72829
FROM: SPONSORED CHILD: Mame Diarra Gueye PU PREFIX 1024 SC #: 1259943

DATE 7 - 8 - 2022

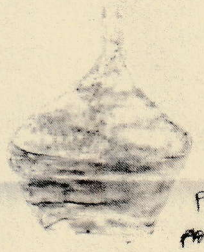
Cher/Chere Zonta Club frère

Je m'appelle abdon gueye qui lis cette lettre au nom de Mame Diarra Gueye.

Bonjour ! c'est avec beaucoup d'emotions que mame Diarra gueye et sa famille vous remercie beaucoup d'avoir reçu votre lettre reçus elle font des jeux ~~[illegible]~~ elles sont en période d'hivernage elle plent beaucoup et les paysans pensent d'avoir une bonne saison des pluies. Nous sommes de l'ire que vous êtes en bonne santé. Nous attendons avec impatience votre lettre dans l'attente grande fille du paysant monde il y a en pied humain. Nous dans le village pas encore inondation. Est ce que vous cette année vous avez des inondation ? Nous vous souhaitons bonne santé.

Merci

Mon Dessin Pour toi



Description :

Lettre écrite par : Abdon Gueye Relation avec le SC: frère

2.
SC 番号: 1024-0001259943
SC 名: MAME-DIARRA GUEYE
国名: SENEGAL
性別: F 年齢: 13

SP 番号: 0072829
SP 名: オオサカツーゾンタクラブ様

2022 年 8 月 7 日

親愛なるオオサカツーゾンタクラブの皆様

私の名前は Abdon Gueye で Mame Diarra の兄です。
妹に代わりこのお手紙を書いています。
おはようございます！
チャイルドとたくさんいる家族みんなで、お手紙を受け取り、あなたに大変感謝しています。
妹は伝統的な遊びをしています。
今は雨期を迎えています。雨がたくさん降ります。
農業に就いている人たちにとっては恵みの雨になります。
あなた方がそろってお元気でいらっしゃると知り、私たちもうれしいです。
またお手紙を送っていただけることを楽しみにしています。
こちらの国では大きな都市のいくつかで洪水が起こり、亡くなった人もいます。
しかし、私たちの村ではまだ洪水は起きていません。
今年、そちらでは洪水は起きましたか？
ご健康をお祈りします。
ありがとうございました。

（2 枚目の絵 「かご」）

✍ 兄の Abdon Gueye が代筆しました。

アフターコロナのパフォーマンス

三林　京子

大槻能楽堂で、能・狂言「鬼滅の刃」を拝見しました。長居植物園で、TeamLab☆BotanicalGardenの空間を感じました。全く違う、異質の芸術だと思いますが、何故か共通したものを感じたのです。それは何だったのでしょう・・・

チームラボの作品は2018年に東京で見たのが最初で、テクノロジーの集合体のような空間に魅了されました。それらは全て屋内でしたが、屋外では2019年の京都下賀茂神社糺の森の作品です。自然との、そして伝統との見事な融合でした。こういう空間で古典のパフォーマンスをしたら面白いだろうなと感じました。

そして、先日長居植物園の空間で感じたのは、植物園の池を諏訪湖に見立てて、チームラボの光の空間の中で、本朝二十四孝の八重垣姫と狐が出たら綺麗だと思い、外にも多くの古典のパフォーマンスが出来ると強く感じました。音はシンセサイザーでしたが、生音があっても良いし、和楽器の音に光が反応して世界感が変化するのもワクワクするでしょう。

そんな折に見た新作能・狂言「鬼滅の刃」は、翁『日の神』・脇能『狭霧童子』・修羅能『藤襲山（ふじかさねやま）』・狂言その一『刀鍛冶』・鬘能『白雪』・狂言その二『鋤鴉』・雑能『君がため』・切能『累』という、能の伝統的な上演形式に構成されていました。前後に洋服の男性が登場しなければ、室町時代からあってもおかしくないような素晴らしい作品でした。

重要無形文化財保持者（人間国宝）の大槻文蔵先生の監修で、演出は野村萬斎さん。能舞台で能管・大鼓・小鼓・太鼓の音と人間の声だけで、背景も何もない空間に野山が出来、そこで漫画の中の炭次郎や禰豆子役が見事に生きているのです。

どちらも、何かが足りなくて、観客がそれを想像出来るのが魅力的なのかと感じています。全てを見せて起承転結の説明するのではなく、序破急の世界感とでもいうか、観客に結果を預けてしまう精神が共通しているのかとも感じました。

俳優でダンサーの森山未來さんが、神戸で「HAAYMM（ハイム）」というチームを立ち上げ、「アーティスト・イン・レジデンス」をオープンされました。世界中のアーティストが日本で滞在して、その土地の魅力を引き出す。神戸市文化・芸術推進ビジョンというコンセプトで始められたようです。外国では国会図書館で深夜までお酒が飲めるというような新しい空間での楽しみ方が増えてきているのに、日本では劇場の終演が8時、ヨーロッパでは開演が8時という時間差があり、外国人観光客は夕食後に遊ぶ場所がないと嘆いています。ホテルのコンシェルジュも困り果てている昨今、インバウンド観光客が戻り始めても、どこもかしこも夜は営業してない状態を、何とかもっともっと自由な発想で日本の本物の芸術・芸能文化を魅力的に見てもらって、国内外の人達に多いに楽しんでいただきたいと思います。

コロナ禍の県内旅行

牛田　三千子

コロナ真只中には旅行は禁止されていましたが、感染が落ち着いてくると徐々に解禁され、まずは居住地の都道府県内ならOKという時期がありました。今まで定期的に家族旅行はしていましたが、灯台下暗し兵庫県民でありながら兵庫県内の知らない場所が多いことに気づきました。幸い兵庫県は広い県で、北は日本海、南は瀬戸内海に面し様々な種類の美味しい魚を賞味できます。また北部但馬地方では牛の生産が盛んで、品質のよい但馬牛や神戸牛と呼ばれるブランド牛の地元でもあります。

日本の遠隔地まで行かなくても一泊二日程度の小旅行で地元の美味しい食べ物や温泉を楽しめることを再発見できたのは、コロナ期間の数少ないご褒美のひとつでした。なかでも淡路島は阪神間の都会地から一時間程度で行くことができ、自然に恵まれた豊かな土地でリラックスすることができます。明石大橋と大鳴門橋が開通したときは阪神と四国が繋がり便利になった反面、淡路島は通過点になってしまうだけ、との危惧がありました。しかし移動は県内のみであった期間は四国まで渡らず、絶好の旅行先になりました。結局県内のみの期間中に竹田城、篠山、赤穂、淡路島２回と５回も県内一泊小旅行をし、地元の良さを再確認し兵庫県民でよかったとつくづく思いました。でもこれからはもう少し足を伸ばしてそろそろ遠隔地にも行きたいなと、もぞもぞしています。

できたら日本の古くからあるクラシックなホテルやレトロな旅館を訪ねてみたいとガイドブックなどを眺めています。戦前からある古い建物は劣化もあるでしょうが、水回りさえ改修されていれば、その古さも趣として楽しみたいです。建物も人間も（？）年を重ねることによる余裕や風格が表れるはずですから。

コロナが終息したら・・・

辻　康子

孫娘と海外旅行を楽しみたいと思っています。孫娘は2020年２月高校を卒業しました。まさにその時が新型コロナウィルス感染拡大の始まりでした。なんとか卒業式は挙行されたものの、大学入学式は気を揉みながらも結局行われず、その後も暗中模索のオンライン授業でした。２回生になると最初は対面だった授業も途中からオンラインに切り替わることが多く、大学には月に数回行くだけ。定期券も買わず大学に行く日に対面の授業をまとめ、空きコマに友人と喋ったり、カフェに行ったりなどの時間はほとんどなく、ひたすら勉強の２年間だったと言います。今年（2022年）３回生になってほとんどの授業が対面に戻りゼミも始まり、自習室や図書館、ラウンジなど初めて使う感じがしたそうです。海外留学も必須の学部ですが、渡航しなくてもいい選択肢も増えたそう。クラブやサークル活動もしかり、青春どっぷりの楽しいはずの時期に友人との交流も少なく、何かと制限の多い学生生活で本当に可哀想な年回りだったと思います。

55年ほど前、青春真っただ中にいた私がヨーロッパ旅行で受けた感動を孫娘に味わわせてやりたいと、ずっと思い続けてきました。孫娘は来年には４回生になり就職活動にも忙しくなることでしょう。社会人になる前、まだ時間が自由になるときに、当時の私が一番感銘を受け印象深かった、音楽が街にあふれるウィーンなど海外旅行に一緒に行きたいと思っています。

天皇陛下の追っかけ

清水　聖保

先日、令和４年11月12日、神戸のホテルオークラに天皇、皇后両陛下がお泊まりになられた。翌日の兵庫の海の祭典にご出席なさるためです。交通規制の看板が阪神高速道路や国道二号線に電工掲示版で表示されていました。勿論、何時から何時までの規制なのかは、表示されません。時間が特定されるからです。

そんな中、天皇陛下を一目見ようという方は大勢おられます。その方々は、沿道に集まり、ホテルの中に集まり、道という道は人で埋め尽くされていました。しかし、天皇陛下の宿泊されるホテルやそのホテルに到着する時間、ご出発される時間は、決して公開はされません。そのため天皇陛下を一目見ようとする人々は、あっちのホテル、こっちのホテルと探し回り、警備の多い所がご宿泊先だとわかるとそこに天皇陛下の追っかけグループに連絡が回る様になっていたようです。そうすることで追っかけグループは、どんどん増えていくのです。

天皇陛下が各地に行かれる際には、この様なことが各地で起こっているのだと初めて知ったのです。沿道で日の丸の旗を振り、写真を撮る大勢の人の姿は、朝早くから天皇陛下が目の前を通り過ぎるまで何時間も続いていました。

こんな光景を初めて目の当たりにした私は、この偶然の時間に天皇陛下のご到着、ご出発に出くわすことが出来たのです。素晴らしい出会いと体験が、私のコロナ禍での大きな思い出となりました。

医師をリタイアして感じること

尼木　純子

私が40歳代前半の時、ゴルフの帰りに雑談をした50歳代の女性が30代の10年、40代の10年、50代の10年、どんどん加速度的に過ぎ去って行くので、時間を大事にしないと後で後悔するよと仰っていたことを昨日の事のように思い出します。

今私にとって何が一番大事かということを考えると時間を大切に、自分の好きなことで時を使いたい、毎日を味わって生きていきたいと思っているので、ついつい色々なお友達から美味しい食事会や色々な催しのお誘いをいただくと、次々と予定に入れるので、医師をしている時よりずっと毎日が慌ただしく忙しく感じています。

やりたいことと言えば、社交ダンスを習ったり、英会話を勉強したり等々思ってはいたものの、もっとゴルフが上手くなりたい、社会情勢や金融情勢等等もっと深く知って、株のトレードも楽しみたい。映画や面白いドラマや素敵な音楽も味わいたいし、家事全般も一人でうまくこなし、ここ12年で増やした物件の管理も、もっとしっかりしたいと思ってはいたものの、ネットサーフィンも愉しいのでついついこれらで時間を費やしてしまい、いつも就寝時間は午前様って毎日が続いています。

その為、睡眠時間は以前よりも削っているような気がします。そんなこんなを考えると　もう医師の仕事に復帰する余裕なんて無いと感じながらも、内科専門医や透析専門医取得の苦労を顧みると、一応更新しておきたいとセルフトレーニング問題を解いたり学会参加で勉強したり、今年の４月１日から晴れて自由人になった積りが、自分の欲どおしさのために、雁字搦めになった様な気分さえしている今日この頃です。

94歳になった母も、80歳代までは色々な意味で頼もしく思える点も多々有りましたが、90歳を超えてからは、昔出来ていた色々なことが出来なくなっている様を間近に見て、老いは万人に来るものであり、そんな母を大切にしなければと言う思いと、自分自身も大事に時間を味わって過ごしていかなければと切に感じる毎日です。

『花外楼の人・歳時記』

徳光　正子

司馬遼太郎氏没後25周年記念の取材で、産経新聞者の記者が来店されたのが、きっかけだった。歴史に造詣の深いその記者は、当店の歴史にも関心を寄せておられ、数日後にデスクと共に、この1年に渡る連載の企画をご提案下さった。思いがけぬこと故驚いた。コロナ禍の中、心は焦れど成す術もなく日々の時間を静かに受けとめつつ今後のこと等を思いめぐらしていた。それだけに有り難いお話だった。だからこそ、当店の宣伝めいた内容でなく読者の望まれる楽しい企画にしていただきたいと生意気にもお願いした。そのための資料提供は惜しまないと。担当の記者達は皆気さくで熱心で素敵な方々だったし、取材や準備の時間は，私にとっても大変楽しく有意義だった。デスクの方が、今回の企画はスタッフが情熱を持って楽しんで取り組んでいる、これが素晴らしいのだと言って下さった。何より嬉しい言葉で、今も心に残っている。

ちょうど1年前に祖母の著書『花の外』を再版していたことも役に立った。以前から廃刊の『花の外』を譲って欲しいとか古本屋で見つけたと言う声を聞いていた。それで初版本を63年ぶりに再版したのだが、その年はまさにコロナの始まった年。計画していた行事や企画は全て中止となったが、この本だけは予定どおり出版できたのである。その折、確認したい記事や事柄もあったが、両親も亡くなっており確かめる手立てもなかった。それが今回記者達の手や力を借りて思いもかけない資料が出現したり、背後関係や事情が判明したりで感激だった。コロナ禍だからこそ私も、じっくりと取り組むことができたことは幸いだった。平常な時期なら、恐らく日々のルーティンワークに追われていたことだろう。幸いにも多くの読者のご要望もあって、今回連載が立派な冊子となって新聞社から出版される運びとなった。驚きと感謝の連続である。ふと若かりし頃「店の歴史と料理、文化の様なものを集大成した読みやすい本を将来作ってみたい」と考えていたことを思い出した。私自身すっかり忘れていたことを取材の終盤になって思い出した。あの時の漠然とした願いが形となった。思えば私一人では到底無理な作業だった。それがこんな形で自然の流れのままにかなえられたのである。

不思議なご縁と出会いに、あらためて心から感謝をささげたい。

昭和の頃の花外楼

編集後記

会報紙の編集に初めて携わりました。今回は公式行事が少なくページを埋めるのに苦労すると予想されましたが、幸い皆様から興味深い内容の原稿を送っていただき形にする事が出来ました。分からないことばかりで皆様にはご迷惑をおかけいたしましたが改めてゾンタメンバー皆様の力を感じました。

笹岡　厚子